

学内広報

2016.9.26

no.1486

「東大TV」公式キャラクター
「ぴぴり」

誕生日：2016年6月1日（電波の日）
住んでいるところ：本郷キャンパス
性格：好奇心旺盛
メッセージ：ぴぴっ！（よろしくね！）



画面には収まり
きれない好奇心

東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

女子学生による女子中高生のための母校紹介トーク集
私が東大を勧める理由

女子学生は未来の後輩たちにどう母校を紹介するのか？

私が東大を勧める理由

女子学生6人によるプレゼンテーションより

高校時代、文理で悩んだ結果、理系を選びました。国語や英語より数学や理科が好きだったのが一番の理由でした。小さい頃から漠然と医者になりたいと思っていたということもあります。

東大には最初全然興味がなかったんです。でも、あるとき、仲のいい友達が見学に行くというので、ついて行きました。そこでキャンパスを歩いたときに雰囲気すごくよかったです。早大、慶大、京大なども見学しましたが、東大は特別でした。それが東大に決めた大きな理由です。他の大学の理系に比べて文系科目の配点が高い東大のほうが私には合格しやすいかも、という読みもありましたが。

東大には私立の中高一貫校からの出身者が多いです。県立高校出身の私としては、県立だってできるんだということを見せたいと思っていて、それが東大受験を決めた一つの理由でした。

もともと生きものが好きで生物がどうやって生きているのかに興味があったので、進学振分けでは理学部生物学科を選びました。東大でも生物を扱う分野ではわりと女子が多く、私の学年では男子17人女子10人です。女子が少ないと認識したことはほぼないです。学部時代、顕微鏡実験が主でしたが、外に出る実習もけっこうありました。小石川植物園で観察をしたり、三崎の臨海実験所に行ってマテ貝を掘ったり

高校時代、東大は全然意識していませんでしたが、先生に言われて意識しました。20年ほど東大生を輩出しておらず、先生はノリで勧めたんでしょうが、純粹だった私はその気になったんです。自分が何をしたいのかはわかっていませんでした。高校と大学の勉強は違うこと、進学振分けという制度を知り、私には東大が適していると思いました。

駒場では、進化学、環境生物学、心理学など、少しでも興味がわいた授業には積極的に出ました。そのなかでワクワクする本に遭遇しました。授業で教科書に使われた「The Tell-Tale Brain」(邦題「脳のなかの天使」)という一冊で、脳神経科学者のラマチャンド

実は、高2で医大を見学して病気やウイルスの研究、治療の話聞いたときに、どうも興味を持ってませんでした。そんな話を高校の先生にしたら、医学部でなくても医療に関わる、医療機器を開発したり、医学が治療方法を解明した後、それをシステム化するもの

決め手はキャンパスを歩いた際の雰囲気でした

工学の仕事だ、と教えられたんです。それで学部は工学部を選びました。

学部に進むと、授業がとても楽しかったですね。工学部の授業は一線で活躍する企業の人から直接話が聞けるのが一つの特徴。学んだことが社会にどう使われているのかを実感できました。

(おいしいですよ)、高山植物の生態を調べに日光の白根山に行ったり。実習中はほぼ自給自足の合宿生活でした。亜熱帯の動植物の生態を調べに西表島に行ったときは、山で昆虫を採集して、私はレアなベニボシカミキリをつかまえました。虫マニアの同期にあげたら、

県立だってやればできると見せたかったんです

お礼にバイン棒をもらいましたね。

4年からは生態情報研究室で、どうやって生物の生殖機能が制御されているのかを研究しています。主にメダカを飼育して使う実験をやっています。ほ乳類が持つパソプレシンやオキシシンというホルモンがメダカにおいて

ランさんの著書です。おもしろくて、これがきっかけで脳の研究をしたいと思うようになりました。脳を研究する場は他にもありますが、人の脳に興味があったので、薬学部を選びました。

薬学部は物理、化学、生物を網羅的に扱うのが特徴だと思います。あと、

駒場の授業で出会った本で脳の研究の道へ

必修の授業の多さ、行事の多さも特徴です。運動会とかボート大会とかスキー旅行とか五月祭の露店とか展示とか……。そうした活動のおかげもあって、深くつきあえる友達ができました。

研究室では、脳回路の機能の解析を通じて創薬科学に貢献したいと思いな

たとえば、自動車のボディにコーティングがされているのと同じように、輸血パックの表面には血が固まらないためのコーティングがされています。研究室ではそうした研究をしています。ナノスケールでの解析です。測定が難しく、方法がまだ確立されていないも

なので、やりがいを感じています。

女子が少ないと聞く心配かもしれませんが、少ないからこそ女子学生の会があったりして仲よくなれるものですよ。日本の工学は世界トップレベルで、そのなかでも東大は最先端にいます。自信をもってお勧めします。

どういう働きをしているのか、ホルモンをつくる神経細胞の活動をGFPという緑色のタンパク質を発現させて確認するという実験を行っています。

生物学科は生物に関する「どうして」を追い続ける学科です。理学部は対象は違っても「どうして」を純粋に追い

求める学部だと思います。私は生物が好きだから生物学科に進みましたが、好きなことを好きと言えるのがいいところだと感じます。動物好き、植物好きの人はぜひ理学部生物学科、「りなま」に来てください。ともに「知のプロフェッショナル」を目指しましょう。

がら、正常時の脳の機能を研究しています。実験に使うのはラットです。エサをもらうために電気ショックを乗り越えないといけない状態で、電気ショックを我慢してエサをもらうのか、それとも電気ショックもないがエサもない状況を選ぶのか。そのときの選択と

脳の活動の関係を脳波で調べています。将来は、感情の研究をするか、企業で人を動かすような仕事をしたいです。いろいろな授業を受けるなかでやりたいことを見つけられるのが東大のいいところ。私も少しずつそれが明確になってきていてあると思っています。



平口侑香里さん
工学系研究科博士2年



新屋美紗さん
理学系研究科修士1年



岡田桜さん
薬学系研究科修士1年

8月4日、「東京大学オープンキャンパス2016」の一環として、男女共同参画室主催によるイベント「女子学生コース」が本郷の法文2号館で開催されました。体験をもとにしたプレゼンとディスカッションを通じ、在学女子学生が女子中高生に東大受験を真摯に呼びかけた約5時間。「女子学生による女子高生のための東大紹介」の模様をダイジェストします。

当日は男女共同参画室の先生方が大活躍。室長の坪井俊先生（午前の部）と担当理事の南風原朝和先生（午後の部）が挨拶を行い、松本武祝先生が全体の司会を担当。矢口祐人先生は教養教育について講演しました。



荒木はるかさん
法学部4年

母校の東大合格者は年に5人前後でした。私は学年300人中150番くらいで、目指すつもりは全くありませんでした。ではなぜ東大に来たか。理由は3つです。一つ目は、せっかく勉強するのなら上を目指したいと思ったこと。二つ目は、東大の過去問題がおもしろかったこと。

過去問題がおもしろかったから東大にしました

どうやって答を組み立てるかを考えるのが楽しくて、こういう勉強を続けたいと思いました。三つ目は、地方育ちだからか、もっといろいろな人がいる場で多様な価値観に触れたいと思ったこと。先生の支援を受けてギリギリで合格しました。一番伸びたのはセンタ

ー試験から二次試験の1ヶ月でした。

駒場時代は好きな授業を受講しました。将棋の授業もとりましたよ。興味本位で学べるのが魅力です。学部選択では、好きだった世界史や地理の方向も考えましたが、法律の授業を受けて奥深さを感じたので法学部にしました。

「六法全書」を暗記するんですよ、とよく言われますが、全然していません。法の解釈を考えたり立法の背景を学んだりするのが法学部です。社会の基礎になるのが法律です。法を学べば社会のしくみがわかり、論理的に考える力が身につく。法曹界に進まない人も

法学部で学んだことは役立つはずですよ。

法学部の特徴の一つは、学科や研究室がなく領域に囚われずに学べることです。私は社会保障法のゼミで、高齢化、少子化、保育園不足などの社会問題に対してどんな制度をつくるべきか、課題や解決策は何かを考えたり、他の国と比較することをやってきました。

中高生の皆さん。東大の女子率は皆さんの力でしか上がりません。就活中、女性が活躍する時代だと多くの人に言われました。今後はチャンスです。地方の皆さん。東京はそれほど遠くはありません。自分と違う背景を持つ人の考え方に触れるいい機会です。東京に来て、東大の多様性を広げてください。



山田琴音さん
経済学部4年

経済学部の学生の多くは文Ⅱから来ますが、私は理Ⅱから来ました。少数派ですが、理系出身のコミュニティもあり、仲よくやっています。数学を扱うことが多いので、文系の人も数学はしっかりやっておくべきです。経済学部の特徴の一つはゼミに入る人が多い

女性の少なさは社会に出た際の準備になるはず

こと。ゼミ選びは重要です。私には学部よりゼミのほうが大きな存在でした。

私がいるのはミクロ経済のゼミです。たとえば、ゲーム理論で「囚人のジレンマ」というものがあります。2人の囚人が各々自白するか黙秘するかの問題です。二人とも黙秘の場合は刑が両

者3年になり、二人とも自白すると刑が両者5年になり、一人が自白し一人が黙秘した場合は、自白した者が無罪、黙秘した者は刑が10年になる場合を想定します。囚人はどう行動するのがいいか。答えは二人とも自白することです。意外でしょうか。一人に着目すると、

自分に都合がいいのは自白の場合です。両者が自分に都合がいいほうを選ぶとすれば、二人とも自白することになります。そんなこと考えても……と思うのでしょうか。たとえば法人税競争を考えてください。税率が同じなら動きませんが、本国より税率が低い国があれば

企業はその国に移ってしまふ。本国だけ法人税を下げる他国から企業が移ってきて得します。「囚人のジレンマ」と同じ構図ですね。なんとなくイメージを持ってくればうれしいです。

縦のつながりが強い学部で、OBと会う機会も多く、就活の話もたくさん聞きました。経済学部でよかったことの一つです。同年代の仲間もおもしろい人が多いですよ。単位数がキツキツではないせいか、いろいろな活動に熱心な人が多いように思います。女子率はやはり低いです。でも、社会に出たら、だいたいどこでも男性の割合が高いのが現実。大学を選ぶ時点で女子の少なさを悩む必要は全然ないと思います。



佐川未来さん
文学部4年

私のいる考古学専修には発掘調査の北海道実習があります。札幌出身なので軽く考えましたが、場所は札幌から飛行機を使っても4時間以上かかる常呂町でした。縦穴住居の遺跡が1ヶ月間発掘を実習しながら、地域との関わりも学びました。常呂は漁師町。漁師

知らないコミュニティで切磋琢磨したくて来ました

の皆さんが差し入れてくれた掌サイズのホタテがとてもおいしかったです。

これから書く卒論のテーマは「東日本大震災にみる考古学発掘調査のあり方への考察」です。社会にどんなふうに関わり入られているのかという観点で考古学を捉えようと思いました。震

災の後、住宅を建てる必要が生じますが、日本ではどこでも土を掘ると遺物が出てきます。国はそれを保護するため、住宅再建前に遺物調査をする必要があります。被災者からすると、遺物調査があるせいで家が建つまでの時間が長くなります。生活と相容れない状

況のなか、考古学はどうすればいいのか。その辺りを書くつもりです。

駒場時代は文理問わずおもしろそうな授業をとりました。たとえば宇宙科学。たぶんよくわからないけど今後勉強することなどないだろうから、という気持ちでした。単位がとりやすいと

聞いたせいもありますが。受講してみるとやはり内容はよくわかりませんが、宇宙の画像をたくさん見られておもしろかったです。すばらしい先生が揃っているので、わかるかどうかは別にして、どの授業をとってもおもしろいはず。知らない世界を見ることで選択肢が広がるのがいいところです。

北大に行く選択肢もあったのに一浪して東大に来たのは、最高の大学に入りたかったから。自分の知らないコミュニティにいたほうが切磋琢磨できると考えたから。結果、同期も先輩も教授もOBも、すばらしい人たちと関わるうちに自分が成長できた気がします。いい選択だったなと感じています。



井上 ゆいさん
教養学部理科I類2年

松本 玲央奈さん
教養学部文科III類2年

熊田 亜紀子
工学系研究科准教授

女子学生パネルディスカッションより

パネルディスカッションは2回に分けて行われ、プレゼンに参加した文理の各3人に前期課程から2人の学生が加わりました(司会は両回とも熊田先生)。2つのトークをテーマ別に抜粋・合体する形で掲載します。

高校時代のこと

熊田 高校時代はどんな感じでしたか。

井上 私は茶道部に入っていて、日本の美に魅せられました。受験勉強をしているうちに数学が楽しくなり、いまは数学に魅せられています。

熊田 日本の美と数学の接点は？

井上 そこはこれから解明していきたいです。

松本 部活はオーケストラでした。文化祭が盛んな高校で、3年の夏はすべて文化祭に捧げました。案の定浪人しましたが、後悔は全然していません。

平口 私は世界が狭くて、ひたすら本とマンガとゲーム……という高校生活でした。

新屋 ギター部で、朝からずっとギターを弾いていました。あと、ディベート部にもいて、高校生英語ディベート大会に出ました。

岡田 天文部でした。校舎の屋上で星を見たり生徒会で文化祭の運営をやったりしていました。

熊田 東大に決めた時期はいつ頃でしたか。

岡田 高2の夏ぐらいに三者面談で先生に勧められたのがきっかけです。決心したのは高2の冬。親は受けたいならどうぞという感じでした。とくに反対はなく、盛り上げられるでもなく。

熊田 岡田さんは西宮ですね。阪大なら家から通えるだろ、と言われませんでしたか？

岡田 それはありましたね。私も少しは考えて、京大、阪大に見学は行きました。でも東大のキャンパスを歩いたときの感触で決めました。

新屋 私は高2のときに先生から東大を受けてみたらと言われて、そうかと思いました。親に伝えたら、「え〜」と言われて。絶対受からないと思われていると思って、やってやろうと気合いが入りました。

平口 東大受験をしっかりと決めたのは、高3の夏、オープンキャンパスに来てからです。両親に話したら大反対でした。絶対受かるはずがない、と。

松本 私も決心したのは高3の夏です。それまで海外の大学が東大で迷っていました。私の高校は東大を受けないほうがマイノリティでした。自宅から一番近い国立大学でしたし自然に受験しました。

井上 何をやりたいのか考えたときに、勉強がしたいと思って、どこで勉強するか、やっぱり東大だ、というふうになりました。うちの高校からは年に1〜2人しか出ないので、先生は無理矢理にでも私を入れたかったらしく、後押ししてくれました。

熊田 平口さん、博士課程に進学する際の家族の反応はどうでしたか。

平口 両親には就職と学費の2点から反対されました。奨学金の選考が落ちたら行かせないぞ、と家族会議で言われましたが、押し切りました。

熊田 私の場合、博士に進んだら結婚相手がいなくなるぞと親から言われましたよ。

平口 結婚に関しては言われませんでしたね。そのときは(笑)。

荒木 私が東大に決めたのは高3の5月頃。上を目指したい気持ちと、いろいろな人がいるところに来たかったということもありますが、東大の試験問題がすごくおもしろくて美しかったのが決め手でした。

山田 高2の頃、定期試験の成績がよかったときに先生から勧められて東大にしました。

佐川 私の高校では生徒の約半数は北大に行くんです。なので、このまま北大に行っても顔ぶれが変わらない、どうせなら東京へ、と思って東大にしました。現役のときは結局だめで、でも一年がなれば行けるなという成績だったので、浪人しました。

東大に入って驚いたこと

熊田 東大に入ってみて驚いたことは？

井上 やはり女子が少ないことです。理科I類ドイツ語のクラスは女子3人でした。おかげで自分のクラスだけでなく、隣や、そのまた隣のクラスまで女子の友達が増えました。それはよかったです。

松本 女子率がすごく低いと聞いていたんですが、私のクラスは少し特殊で8人中5人が女子でした。それが逆にびっくりでした。

平口 女子が少ないことには特に驚かなかったんですが、男子がみなメガネでチェックシャツで、ズボンにシャツインで、リュックサックだったのが驚きでした。中学、高校と女子校で塾にも行ってな

かったので、会う男性は父と先生しかいませんでした。そんな私にはみんなが同じように見えて、誰が誰だか区別がつきませんでした。

新屋 私も同じことを言おうと思っていました(笑)。なぜかチェックシャツですよね。私は理科II類で、理IIIの人といっしょにクラス分けされるんですが、III類からきた人がとても賢いばかりで、それもびっくりしました。

岡田 クラスのシステムがちゃんとしていることに驚きました。私は地元の高校から一人で来たので、最初友達ができるか心配だったんです。でも東大にはクラスがあって、最初に上のクラスの先輩が自己紹介の会を開いてくれるし、オリエンテーション合宿も企画してくれる。そこですぐに友達をつくれたのがとてもよかったです。

熊田 私はフランス語選択でしたが40人中女子4人でした。当時から男子はメガネでチェックシャツでリュックでした。そこから工学部の電気に進学したら130人中女子1人になって、さらに衝撃。でも少ないと仲良くなりやすいよね。

佐川 私は、札幌から東京に来て、人がすごく多いなと思いました。大学の同期が3000人もいるし、それと同じ人数が4学年もあるし、教授もたくさんいるし。人の多さに驚いてしまいました。

山田 高校のときは先生が一所懸命教えてくれたんですけど、大学では聞きたい人だけ聞けばいいという感じがあって、少し驚きました。学生に学ぶ意欲がないと得るものが少なくなると思いました。

荒木 男子が多すぎて、とくにしゃべらない男子が多いことに驚きました。私は地方の公立高校で共学でしたが、男子も女子も普通にしゃべっていました。でも東大に来てみると、中高とも男子校で女子との話し方を知らないという人が多く、こちらから話しかけるとキョドったり、いきなり敬語で話しかけたりして……私の知らない人種でした。

松本 私のクラスだと、いかにも勉強だけしてきたという人は少なかったです。茶髪にしている人も多く、勉強一筋だった感じの人は少なかったですね。いろいろなことを楽しんできたという感じの人

のほうが多いのが、すごいなと思いました。

井上 英語でネイティブの先生が教える授業があって、その先生が日本語をいっさいしゃべれないのに驚きました。一回、先生が教室に入るための暗証番号を何度も間違えて、入れない状態になりました。先生は何が起きているかわからない。受付の人が日本語で説明するけど先生はわからない。しょうがないから学生が通訳に入ってなんとかしました。というように、大変だけども鍛えられました。

お金とアルバイトについて

熊田 どう生計たててるの？

岡田 私はほとんど奨学金です。バイトは私の場合は基本的に入れてなくて、夏休みなどのときに集中して入れる感じですよ。

平口 修士のときに返還しなくていい奨学金をもらえることになり、それで授業料を払っています。

新屋 高校のときに申し込んだ奨学金があって、それを受け取っています。

佐川 私は奨学金をもらいながらバイトもしています。奨学金は返還義務があるタイプです。両親には家賃だけ払ってもらって、生活費は自分で稼ぎます。奨学金対バイト対送りが1対2対2くらいです。**荒木** 学費、生活費、家賃は、働いてから返すということで親に出してもらっています。バイトでためたお金は卒業旅行に使おうと思っています。親に感謝です。将来、稼いで返します。

熊田 学年があがると返還しないのでいい奨学金が多くなりますね。バイトはどうですか。

岡田 家庭教師をちょこちょこやってきました。

新屋 私は土・日に飲食店のバイトをしています。お客さんとしゃべるのが多い接客です。社会勉強にもなるし、息抜きになります。ずっと研究ばかりしていると一般的な話題がなくなっちゃうので。

平口 塾講師と家庭教師を駒場の2年生の頃から修士1年の夏、奨学金をもらうまではずっと続けていました。週3~4回です。

松本 塾講師を週2回やっていて、夏季講習の頃は稼ぎどきです。あとは単発で試験監督とか、珍しいところではサッカーの試合の補助員とか。

井上 塾で教えています。週1~2回です。

新屋 自治医大で学生の実習のTA、手伝いをやりました。実験の被験者もやったことはあります。

佐川 私はいまは主にピストロの店員です。あと添削バイト。中高生の模試の添削です。

山田 短期でブライダルスタッフとか語学の通訳とか。あと、家庭教師。いま3人指導中です。東大+家庭教師でググると出てくることです。

荒木 法学部図書館の手伝いをやっています。本の返却とか整理とかの。企業のインターンとして新規事業企画とかミーティング参加とか。

熊田 アルバイトをすると、時間は切り売りするものだと実感しますね。

部活・サークル活動について

熊田 駒場のときのサークルは？

岡田 私は国際交流サークルでした。1年生だけで13人くらい。ハーバード大学の学生を10人ほど招いて日本について学び、東北に研修に行きました。資金集めや企画の準備を1年かけて行いました。

新屋 1~2年のときはテニスサークルでした。3年生になって実習が入ると行けなくなりました。

平口 バドミントンサークルでした。朝7時から10

時まで練習して夜も練習。サークルづけでした。本郷に来てからも年に数回練習に顔を出しています。**松本** 五月祭実行委員会でした。今年からはアカペラのサークルにも入って日々練習しています。

井上 私は理系ですが、古文サークルに入って、いろいろと古典を読んでいます。表現を味わったり、解釈したり、比較したり。他大の人でも入れますが、結果的には東大生ばかりです。

山田 バレーボールサークルにいて、週に3回ぐらい活動しています。3年のときには経済学部の学生経友会というところにも所属していました。

佐川 私はバンドサークルです。月1回ライブに出たり見たり。比較的参加は自由なところですよ。

荒木 運動会のラクロス部です。部活に割く時間はかなり多いです。

熊田 じつは私、ラクロス部だったんですよ。マイナーな競技だと、経験者が少なく、けっこうがんばると強くなれるのがいいところですね。

会場との質疑応答など

会場1 埼玉から来た高校2年生です。受験期間中につらいときはどうされましたか？

岡田 モチベーションが下がったときは、気晴らしに遊んだり外に出て運動しました。目標がぼんやりしているとモチベーションが下がります。何をやりたい、ということを具体的にしておくといいと思います。

新屋 いやになったらやめて、音楽を聴いてリラックスしていました。でも、当時聞いていた曲はいま聞けないですね。当時のことを思い出してしまうので。

平口 やりたくなくてもやらなくていいときは、友達に連絡して「いま何やってる？」「あと何分でこまでやるよ」と発破をかけたかったです。

佐川 野球が好きだったので、ファイターズの試合を観戦に行って気分転換しました。

山田 私は毎日近所の公園を10周走っていました。

井上 集中力が落ちたら、積分計算の簡単な問題をやって気持ちを取り戻していました。京都大学を志望している友達と数学の問題を出し合ってバトルすることもありました。

会場2 フリーメイソンという秘密結社に興味があるんですが、これを研究することはできるでしょうか。東大で研究しているところはありますか？

佐川 正直、私は知らないんですけど、興味を持っている先生や学生はいると思います。これはできないということはないはずですよ。自分から発信していけば知識は得られると思います。

熊田 どこから攻めるかによりますね。宗教的な面から攻めるなら宗教学、風土からいけば地域研究とか。進学選択でも、興味あるものに対して直球だけでなくいろいろな攻め方があります。大きな科類で選んで、大学の2年間で調べたり悩んだりして、そこから選べるのがいいところだと思います。

会場3 数学科を志望している娘のかわりに質問です。東大にしてよかったことを教えてください。

井上 先生のレベルが高いことです。授業で普通の教科書には載っていないようなことまで言及してくれます。たとえば、フランス語の本にしか載っていない新しい証明とか。最先端の数学を教えるゼミが開講されていることもありますよ。

熊田 学生も教授もトップレベルなのでやはり研究レベルは日本一だと自負できます。人がすばらしいと予算もいただきやすくなり施設や実験設備もすばらしくなります。安心して受験させて下さい！

男女共同参画室の 中高生向けの取り組み

男女共同参画室は、未来の東大生になってくれるかもしれない女子中高生に向けたイベントや広報などを実施しています。

在学女子学生による母校訪問



地方出身者を中心に、東大の女子学生約100人を特命広報スタッフに任命、自分の出身校に赴いて東大の魅力を後輩たちに語ってもらうイベントです。2010年度から続けている取り組みで、毎年7~9月を中心に行っています。

女子高校生のための 東京大学説明会



卒業生による講演や在校生が東大女子ライフを語るパネルディスカッション、在学学生が案内役をつとめるキャンパスツアー、東大ガイダンス、オルガン同好会、biscUITなどの学生や教職員による個別進学相談会ほか、内容は盛りだくさん。2006年から毎年開催しており、11回目となる今年9月18日(日)に駒場の900番教室で開催されました。

女子中高生向け冊子 『Perspectives』の発行



2012年から女子中高生向けに隔年で発行しているフリーペーパーです。2016年7月に出た最新号では、在学女子学生と男女共同参画室進学促進部会長の座談会、教育・国際交流・住まい・卒業生という4つの切り口による当事者インタビュー、「東大女子の1日」「卒業後の進路」【Q&A】などのコンテンツを掲載しています。

家族でナットク! 理系最前線シンポジウム2016



理系女子中高生のためのシンポジウムを10月29日(土)に工学部2号館で開催します。基調講演では、山口大学特命教授の林裕子氏が女子学生の進路選択に関する両親の影響について綿密な調査結果をベースで紹介するほか、模擬講義、社会で活躍する先輩リケジョの講演、在学女子学生による大学生活の紹介を企画しています。

女子学生向けの部屋を用意

自宅からの通学が困難な女子学生のために、キャンパスに近く、セキュリティ・耐震性が高く、保護者が宿泊可能なマンション等を、平成29年4月から100室程度用意すべく、現在奨学生課奨学生チームが鋭意準備中。平成29年1月中旬頃に案内開始の予定です。

教養教育の現場から

リベラル・アーツの風

第17回

創立以来、東京大学が全学をあげて推進してきたリベラル・アーツ教育。その実践を担う現場では、いま、次々に新しい取り組みが始まっています。この隔月連載のコラムでは、本学のすべての構成員がぜひ知っておくべき教養教育の最前線の姿を、現場にいる推進者の皆さんへの取材でお届けします。

STAP事件から研究倫理を考えるワークショップ

／「キャリアパスと研究倫理 自分事として語り合おう」

お話／教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門 特任講師

定松 淳



研究倫理ウィーク特別企画として

—今回のワークショップは、全学で設定されている研究倫理ウィーク（9月1～7日）の特別企画として行ったんですね。

「昨年度の研究倫理ウィークに行われた「研究倫理教材コンテスト」で最優秀賞に輝いたのが教養学部後期課程（3～4年生）学生のチームで、私たちの部門とも日頃から交流のある学生たちだったので、今年度はいっしょにワークショップをやってみようということになりました」

「不正はダメと唱えるだけでは深い議論にはなりません。当日ファシリテーターを担当した同僚の江間有沙特任講師と相談して、一般的な議論に終始せず自分に引きつけて考えようという意図から、テーマに「キャリアパス」を加えたんです。具体的に考えるには事例を題材にするのが一番だとも考え、STAP細胞事件を議論のきっかけにしよう決めました」

—ワークショップではまず定松先生が『あの日』（小保方晴子著／講談社）の内容を詳細に紹介していましたね。

「糾弾された側の言い分にもきちんと耳

を傾けるというのは、科学的・実証的な姿勢の基本だと思うんです。不正があったかどうかではなく、どういう研究テーマの展開とキャリアパスのなかでの事件に至ったのかという観点から話題提供しました」

—事例を復習した後は3つに分かれてのグループディスカッションでした。「いろいろな人と話すために途中で席をシャッフルしましたが、どのテーブルでも自分ならどうするかという視点で語ることはできたと思います。まずいと思っても指導教員の指示に抗うのはやはり難しいとか、研究室の大ポストと中ポストから違うことを要求されて板挟みで困るとか、物理と生物では不正の難易度が違うように感じるとか、実験中の試料のコンタミネーションは十分あり得る話だとか……。私自身も勉強になりました」

研究室外の人と話す機会は貴重

「研究倫理のことは、自分の研究室で話す機会はなかなかないのが実状でしょう。今回のように自分と違う分野、違う研究室の人が相手のほうが話しやすいし互い

の刺激にもなります」

—今回、ゲストがお二人いましたね。「幹細胞生物学を専門とする立場からSTAP細胞について随所で論評を行ってきた八代嘉美さんと、科学報道の記者としてSTAP事件を扱ってきた岩井淳哉さんです。私には専門外の分野ですので、二人のプロから学生たちが直接話を聞いたのは非常によかったですね。生物学の分野では複数の研究室を渡り歩いてキャリアを重ねる例は多くないとか、論文が出た時点で報道することには検討が必要かもしれないとか、専門家ならではの深い知見を共有していただけた」

—今後の研究倫理教育について何か思うところはありますか。

「私たちの科学技術インタープリター養成プログラムでは、学内のさまざまな研究科から集まった大学院生たちが「科学と社会」をテーマにして普段から議論を行っています。科学技術に関わるさまざまな問題について、研究室の外で分野を横断して議論をするというアプローチは研究倫理についても有効ではないかな、と感じました」

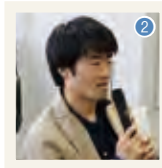
当日の流れ 9月2日@KOMCEE West

イントロダクション	10分
自己紹介	20分
STAP細胞事件についておさらい	30分
ワークショップ1: STAP細胞事件、どう受け止めた？	30分
ワークショップ2: 自分事として語り合おう	20分
まとめ	10分

全2時間のワークショップは、「自分の思いを発してみる」「批判はしない」「気になったら聞いてみる」「話題を変えることを恐れない」「フラットな関係で議論する（さん付けで呼ぶ）」という5つのルールの下、参加者が自分のニックネームを記した名札をつけて行われました。



① 京都大学iPS細胞研究所上廣倫理研究部門特任准教授の八代嘉美さん。② 日本経済新聞社大阪本社編集局の岩井淳哉さん（科学技術インタープリター養成講座の7期生！）。③ 「研究倫理教材コンテスト」で最優秀賞を受賞した応用倫理学演習チームによる教材の表紙。



ワタシのオシゴト 第126回

RELAY COLUMN

工学系・情報理工学系研究科等事務部
学務課総務・学生支援チーム

内山 淳

総務は気働き



事務室のある工学部8号館の前で。

みなさんは「卵落としコンテスト」ってご存知でしょうか。これは、生卵を高い所から落としても割れないように、緩衝材として使う新聞紙やボール紙の工作を工夫しようという科学実験です。

私の勤務する工学部8号館には、非常階段を使用して、卵落としを行いたいという依頼が寄せられます。この一風変わった依頼への対応もワタシのオシゴトの一つです。

私の部署では、学務課内の総務、労務管理、在学生・卒業生への各種証明書の発行、奨学金、共通講義室の貸出・管理、工学部の学生団体（丁友会）や五月祭の活動支援など、主に教育・研究の裏方的な業務を担当しております。部署名に「総務」と名がついているだけに、業務内容は幅広く、卵落としのような建物の使用に関する案件も担当しています。

濱田純一前総長が言っていた「総務は気働き」との言葉を思い出しながら、細かい要望にも素早く対応できるよう、日々奮闘しています。



同僚と工学部の紹介冊子を手に。

得意ワザ：証明書発行機の不具合を力技で直すこと
自分の性格：細かそうに見える実はけっこう大雑把
次回執筆者のご指名：田中秀典さん
次回執筆者との関係：奨学チーム時代の同僚
次回執筆者の紹介：日本酒好きの頼れる後輩

決算のDOOR
～リロード～
数字が導く東京大学の未来

第7回

東京大学の「見える化」とは？

近頃、霞が関界隈に流行りしもの、「国立大学法人の見える化」なり……。運営費交付金が年々減少する中、民間資金確保の必要性は高まっている。しかし、企業から提供される研究資金（特に間接経費）について、その使われ方が外から見えにくい、また損益均衡の決算書からは大学の経営状態がわからない、故に企業は投資先に日本の大学を選ばない、もっと「見える化」を推進し、云々かんぬん……との議論が只今あちらこちらで起こっているようです。

さてさて、説明責任が不十分というご指摘、真摯に反省せねばなりません。しかし、本当にそうなのでしょうか？ 実は国立大学は私立大学より、独立行政法人より、積極的に財務情報の開示を行っています。貸借対照表や損益計算書等では足りない情報は附属明細書で補足し（例：科研費）、事業報告書で説明をしています（例：病院の財務状況）。もしかして見えないのではなく読み取れていないのでは？ 誰か何を見たいと言っているのか、目的によって見たい情報は異なるのでは？ いやいや大学に投資を考えるとの方は大学の活動全体を知りたいのでは？ ならば財務情報で示せる大学の取り組みはほんの一面ではないか？ そもそも学内での「見える化」すら完全ではないのでは？ 会議は踊り、されど進まず……。

この堂々巡りを解消するべく、ここはひとつ皆でオープンに話し合おう、ということで今年も東京大学では、ホームカミングデー(10/15(土))を利用し、東大版株主総会『Financial Report 2015』（13時半から鉄門記念講堂にて）を開催。国立大学法人の「見える化」について有識者、本学の役員等パネリストの方達に大いに議論していただくことになりました。今年は昨年より一段とパワーアップ！ 運動会の可愛いマスコット「イチ公くん」とのコラボ企画もあります。ステイクホルダーの一員としてイチ公くん、学生さんが登壇するだけでなく、会場のみなさまにも参加いただくコーナーもあります。素敵なお土産もご用意しておりますので、是非みなさま、お誘いあわせのうえ、お越しくださいませ。お待ちしております！（青）



「3、2、1、スタート!」。イチ公くんも名演技を披露してくれました（動画「古谷先生とイチ公くん」と考える国立大学法人会計」当日公開!）。

本部決算課（内線22136） kessanka.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

あちこちそちこち 東京大学 第12回

本郷・駒場・柏以外の本学の現場の教職員が紹介

宇宙線研究所附属

神岡宇宙素粒子研究施設の巻

武長祐美子

地底から宇宙を見つめる実験基地



研究棟。付近にはカモシカやサルが姿を現すことも！

神岡宇宙素粒子研究施設は、岐阜県と富山県の県境近く、岐阜県飛騨市神岡町に位置しています。研究棟と宿泊棟からなるエリアと、2015年のノーベル賞で一躍有名になったスーパーカミオカンデ実験施設がある地下実験エリアがあります。

地下実験エリアは、研究棟から車で約10分の神岡鉱山内の地下1000mにあります。地下といっても山頂から下に1000m下がった場所なので、入り口のトンネルから水平に坑内専用の車で入ります。真っ暗なトンネルを約2km進むと地下実験エリアです。スーパーカミオカンデ実験だけでなく、ダークマター探索のXMASS実験や、重力波観測のKAGRA実験、東北大学のKamLAND実験、大阪大学のCANDLES実験など、世界最先端の宇宙素粒子実験が神岡の山中に集結しています。神岡鉱山が実験場として選ばれたのは、岩盤が硬いなどの理由がありますが、神岡鉱業株式会社さんの優れた穴掘り技術も理由の一つです。神岡鉱業さんによる保守管理のおかげで安全に実験を進めることができます。

神岡施設には国内外40以上の研究機関から共同研究者が集まって研究を進めています。周りは山に囲まれた自然豊かな場所ですので、研究の合間にサッカーやバーベキューが行われることもあります。神岡鉱業の皆さん、地域住民の方々、宿泊棟のスタッフ、技術職員、事務職員など多くの方に支えられて最先端の研究が神岡の地で展開されています。



1. スーパーカミオカンデ実験エリア。
2. 地下実験エリア入り口。
3. 地下坑道。
4. 研究棟裏を流れる高原川。

www-sk.icrr.u-tokyo.ac.jp

Crossroad

産業界と大学がクロスする場所から、産学連携に関する“最旬”の話題や情報をお届けします。

産学協創推進本部

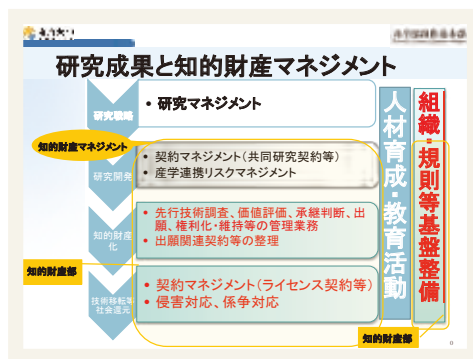
第130回

知的財産部のご紹介

本学は文理に亘る様々な部局が、その特徴と卓越性を基に、時空間的に広い視野から、社会と産業界が求める新たな視野を一緒に考え提案していく主体たりえる存在です（五神総長メッセージより）。

そして、本学が、その研究活動等によって得られた知的創作の成果の社会への還元（社会連携活動）を実現するためには、知的創作物（知的財産）の保護・管理・活用等のマネジメントが必要（本学知的財産ポリシーより）であり、産学協創推進本部の中で、その役目を担っているのが、知的財産部です。

研究活動により得られた成果を有効に管理、活用、保護するための知的財産マネジメント活動を概観すると、以下の図のとおりです。



知的財産部は、日常的な連携関係にある株式会社東京大学TLOと協力して、上図に記載した知的財産マネジメント活動のうち、知的財産の承継判断や価値評価等の管理活動を行っています。また知的財産関連規則や契約書の雛型等を整備し、ライセンス契約をはじめ共同研究契約、共同出願契約等の検討や審査をし、さらには、各種の係争対応等の相談を受け、必要に応じて交渉の場にも臨みます。我々知的財産部は頼りになる存在ですので、もし、研究の現場で研究成果の有効な管理・活用方法など、疑問点や問題点などが生じましたら、いつでも気軽に知的財産部にご相談ください。



知的財産部のメンバー。

産学協創推進本部 www.ducr.u-tokyo.ac.jp

インタープリターズ・第110回 バイブル

総合文化研究科 教授 藤垣裕子
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門

サイエンスとヒューマニティ

人間を対象とした研究を、ジョルジュ・バタイユは「体験の方へできるだけ発展しないようにしている研究」と「体験のほうに決然とすすもうとしている研究」に分けている。そして、データに基づく研究に対し、「学者の体験が作用しなくなればなるほど、彼らの仕事の真正性が増す」とする。これは、「個人の恣意性の排除がすすむほど、客観性が増す」ことに相当する。

人間を対象としたサイエンスには、個人の恣意性の排除による客観性の確保が必要となる。それに対して、人文学（ヒューマニティ）の場合は、あるところまで恣意性を排除するにせよ、主観性を禁止していたら成り立たないところがある。そこで次の問いがでてくる。主観性を禁止するサイエンスだけで、人間のことは理解できるのだろうか？

例えば、精神医学あるいは応用心理学という分野では方法論争があり、誰がいつやっても再現できるということを重視し、個人の恣意性の混入に禁止をかけている研究群と、最初からそのような禁止をある程度はすきないと研究できない研究群がある。精神科研究には多数例研究と個性記述研究とがあり、多数例研究で用いられる変数は、診断基準による病名、年齢、性別など、個人の恣意性は混入せず、操作的に一意に定まる変数である。それに対し、個性記述研究で用いられるのは、家族との関係、会話、職場での人間関係、勤務の履歴、初診時の心象、医師の質問に対する反応などであり、個人の恣意性の混入への禁止をある程度はすきないと記述できないものもある。操作的に一意に定まる変数だけだと、個性記述研究はできないのである。

同時に、人間の体験の育成にとって人文学が果たす意義もある。体験の育成とは、ドイツ語の教養の語源であるBuildungsである。「体験のほうに決然とすすもうとしている研究」は、科学的という禁止を外すことによって、つまり誰にでも当てはまるということを目指さないことによって人間の体験の育成に役立つ。主観的なものを禁止するサイエンスだけでは体験の育成、そしてリベラルアーツ教育は成立しない。逆説的なことに、科学技術インタープリターの養成における体験の育成は、サイエンスだけでは成立しないのである。

科学技術インタープリター養成プログラム
science-interpretor.c.u-tokyo.ac.jp

救援・復興支援室 より

第61回
本学の救援・復興支援室の最近の状況や、遠野分室の日々の活動の様子をお届けします

救援・復興支援室の活動(8~9月)

8月	大熊町学習支援ボランティア、東日本大震災被災地スタディーツアー
9月	岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア

ザシキワラシの日常⁽³⁵⁾

本部企画課係長(遠野分室勤務)



文: 佐藤 克憲

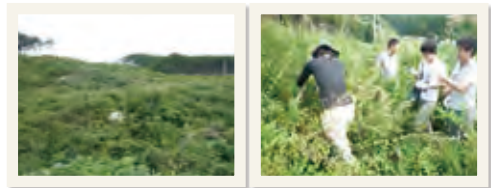
東日本大震災に関する被災地域の救援・復興に資する取り組みを行っている“救援・復興支援室登録プロジェクト”のうち、貸出車両の使用等で現在も遠野分室と直接関わりがあるものは5つほどとなっています。そのうちの1つで、陸前高田市で活動する「高齢者向け復興住宅建設支援研究事業」プロジェクトの、9月3日及び4日の活動に同行してきました。

被災高齢者が仮設住宅を出た後の住まいとして、現状では災害公営住宅か自力再建か選択肢はありませんが、前者は高層建築が多く高齢者には住み慣れないものであり、後者は年金生活の高齢者にはハードルが高いものとなっています。本プロジェクトは大学院工学系研究科建築学専攻建築計画系研究室のメンバーにより構成され、地元の社会福祉法人からの協力依頼を受けて、低層建築、福祉サービス付きで、かつ託児所や地域交流施設なども併設し地域コミュニティの中核施設となりえる住宅の設計・建設支援を行っています。

今回は完成後の敷地内の植生デザインを考えるに際し、建設予定地内の植生調査を行いました。植生を見ながら住宅完成後も残す予定の植物に印を付け、写真撮影及びGPSで位置・高度の情報を測定・記録していくのですが、2ha強の広大な土地に草木が生い茂り、傾斜地でもあることから調査はかなりハードなものでした。復興支援への地元からの強い期待を受け、専門外のことも含めて対応しなければならぬ苦勞を強く感じました。

住宅は来年度中の完成予定だそうでした。本プロジェクトのこのような地道な活動が、被災高齢者の生活の充実や地域コミュニティの発展に是非ともつながって欲しいものです。

今回もお読みいただき「オアリガトガンス！」。



(左)高齢者向け復興住宅建設予定場所(傾斜地)。(右)完成後残す予定の植物に印を付ける。

www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/info_j.html
kyuenfukkou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp 内線: 21750 (本部企画課)

トピックス

全学ホームページの「トピックス」(<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/topics/>)に掲載した情報の一覧と、その中からいくつかをCLOSE UPとしてご紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル	実施日
8月17日	情報理工学系研究科	東京大学 RoboTech、NHK 学生ロボコン優勝、ABU ロボコン 2016 バンコク大会出場決定、首相が激励	8月15日
8月22日	情報理工学系研究科	東京大学 RoboTech、ABU ロボコン 2016 バンコク大会で見事 3 賞を受賞	8月21日
8月22日	カブリ数物連携宇宙研究機構	前 Fermilab 副所長ヤンキー・キム博士来日 女子中高生理系進路選択支援イベント「宇宙ヲ覗クト？」	8月20日
8月24日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.18】準硬式野球部は七大戦でサヨナラ負けの 4 位に	8月10日
8月24日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.19】硬式野球部が七大戦で貫録の 3 連覇！	8月11日
8月24日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.20】バドミントン部が七大戦で男子が 6 位、女子は 7 位	8月9日
8月26日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.16】応援部が七大学合同バレードを開催！	8月7日
8月26日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.17】全国七大学応援団・応援部合同演舞演奏会を盛大に開催！	8月7日
8月29日	情報基盤センター	学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第 8 回シンポジウム開催報告	7月14日
8月30日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.21】バレーボール部が七大戦で女子が全勝優勝！男子は 3 位の成績を収める！	8月15日
8月30日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.23】水泳部水球陣が圧倒的な強さで全勝により 2 連覇達成！	8月20日
9月2日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.22】フェンシング部は七大戦で昨年に続き 2 位の好成績！	8月19日
9月7日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.24】馬術部は七大戦で 5 位の成績に終わる	8月20日
9月7日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.26】相撲部が七大戦で 4 位の成績を収める	8月28日
9月7日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.25】ハンドボール部は七大戦で連覇はならず 6 位の結果に	8月17日
9月8日	本部学生支援課	【七大戦ニュース No.27】<残り 6 競技！> 弓術部が七大戦で女子が見事優勝！男子は 3 位の好成績！	8月26日
9月8日	本部学生支援課	漕艇部が全日本新人選手権エイトで 30 年ぶりのメダル獲得！	8月20日
9月12日	広報室	広報誌「淡青」33 号を発行しました	9月9日

CLOSE UP



首相官邸を訪れ、安倍総理から直接激励を受けた学生メンバーたち。

東京大学RoboTechがABUロボコン2016で活躍 (情報理工学系研究科)

東京大学RoboTech(顧問:情報理工学系研究科 國吉康夫教授)は、7月10日に大田区総合体育館にて開催された「NHK学生ロボコン2016~ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2016 タイ・バンコク大会代表選考会~」において優勝し、「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト2016 タイ・バンコク大会」の出場を決めました。ロボットが、障害物ゾーンを越えて進んできた別のロボットからプロペラを受け取り、それをボールの頂上に取り付けければ勝ち、というのが今大会のルールです。

これに先駆け、8月15日、RoboTechの学生メンバーたちは首相官邸を訪問し、安倍晋三総理と面会。総理からは、世界の舞台で力を発揮するよう、激励を受けました。

8月21日にタイ・バンコクで開催された大会本番に日本代表として出場したメンバーは、ベスト4の成績にくわえ、「ABU ROBOCON AWARD」「2nd RUNNER UP」「Special Award (Nagase Award)」の3賞を見事受賞しました。

次回のABUロボコンは東京が舞台。東京大学RoboTechのさらなる活躍に期待が募ります。

CLOSE UP

広報誌「淡青」33号を発行 (広報室)



表紙は東大の知の蓄積を担ってきた本郷・総合図書館の書庫です。

本部発行の学外向け広報誌「淡青」33号(9月9日刊)の特集は、「東大の『文系』、『文系』の東大。UTokyo 秋のブンまつり」です。理事・副学長の石井洋二郎先生と宇宙線研究所所長の梶田隆章先生による文×理対談、「文系」12先生による研究自己紹介、専門分

野名に含まれる漢字を切り口にした分野分布図、文系各部局の誇るコレクション紹介、文・法・経の3分野における伝説の偉人たちの足跡紹介というコンテンツで、東大がこれまでに育んできた多様で膨大な「文系」学術の一端をお見せします。ご一読ください!



CLOSE UP

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点のシンポ

(情報基盤センター)



大学、独法等研究機関、企業などから、194名の参加者が集いました。

東京大学情報基盤センターが中核拠点を担う学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点では、7月14～15日に「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第8回シンポジウム」をTHE GRAND HALL (品川) で開催しました。

今回のシンポジウムでは、平成27年度に実施された共同研究35課題の口頭発表による最終報告および平成28年度公募型共同研究に採択された57課題のポスター発表による研究内容紹介を実施しました。口頭発表、ポスター発表とともに、一般の参加者も交えた活発な質疑や意見交換が行われました。

シンポジウム初日には、中村宏総括拠点長

(東京大学情報基盤センター長) による主催側挨拶と、榎本剛文部科学省研究振興局参事官(情報担当) の来賓挨拶がありました。それに続けて2日間にわたり、公募型共同研究が対象としている超大規模数値計算系応用分野、超大規模データ処理系応用分野、超大規模情報システム関連研究分野およびこれらの分野にまたがる複合分野研究の研究発表および研究内容紹介が行われました。

閉会では、国立情報学研究所の合田憲人教授からシンポジウム全体のサマリーを含めた挨拶があり、シンポジウムは盛会のうちに終了しました。



CLOSE UP

七大戦の熱い戦いがついにクライマックスに

(本部学生支援課)



本学主管で行われている第55回七大学総合体育大会(七大戦)がクライマックスの時を迎えています。

8月11～13日には硬式野球部が貫禄の3連覇を達成、8月15～19日にはバレーボール部女子が全勝で見事に初優勝、8月20～21日には水泳部水球陣が圧倒的な強さを見せつけて2連覇を成就、8月26～31日には弓術部女子が優勝を飾りました(その他の部も各々活躍しポイントを重ねました)。

8月6日には、応援部が本郷キャンパス周辺の沿道を練り歩く七大学合同パレードを実施。龍岡門を出発し、本郷消防署前を南下、本郷通りより北上し正門から銀杏並木を通過してゴールの安田講堂に進みました。翌7日には、その安田講堂にて、全国七大

学応援団・応援部 合同演舞演奏会を開催。第一部の各大学の演舞に続き、第二部のブラスバンド・チアリーディングによる合同演奏会が行われ、トータルでは8時間を越える大変長丁場のイベントとなりました。

演奏会後、応援部の峯崎真汰主将は、「私が入学して以来、東京大学は一度も総合優勝を経験していません。ラストイヤーの今年こそ、東北大学の4連覇を阻止して、久々の優勝を東京大学が遂げることの出来る様、応援部としても全霊を捧げて応援して参ります」と、漲る決意を吐露しています。

9月18日の体操競技でついに全競技の日程を終える七大戦。今号が配布される頃には、総合優勝の歓喜が東大生にあふれていることでしょう!

第15回東京大学ホームカミングデイ開催のお知らせ (卒業生室)

卒業生と大学との交流を深めることを目的として、例年本郷と駒場で開催している東京大学ホームカミングデイを、10月15日(土)に開催します。メインプログラムとなる特別フォーラムは、「[知]がひらく～新たな価値創造への挑戦」がテーマ。日本テレビアナウンサーの柘太一さんをモデル

ーターに、ソニー執行役員の島田啓一郎さん、あすかホールディングス取締役会長の谷家衛さんほか、パネリスト5人が、イノベーションと価値創造について語ります。各種講演会、年次卒業生が集まる周年学会、親子参加型イベント、模擬店など、その他の企画も特設サイトでぜひご確認を。



www.u-tokyo.ac.jp/index/alumni.html

UTokyo Researchで学生インターンが活躍

(広報戦略本部)

東京大学から日々生み出される膨大な研究成果を日本語と英語の両方で世界に発信し続けている「UTokyo Research」では、この8月、より多くの人に研究成果をお知らせするための試みとして、初めての学生インターンを迎えました。「体験活動プログラム」の一環として今回力を貸してくれたのは、Zak Brownlieさん(PEAK 1年)と

日原雪恵さん(法学部4年)の2人。新しい記事の企画を立案したり、研究内容をアピールする動画や広報誌発行をお知らせする動画を作製したりと、研究成果広報の即戦力としてがんばってくれました。学生さんたちのフレッシュな力も借りて進化を見せ始めたUTokyo Researchに、ますますのご支援とご協力をお願いいたします。



台風とともに現れて活躍した2人のインターン。



こころの発達に関する問題をめぐって

発達障害や児童虐待をはじめとしてこころの発達に関する問題が増大し続けているように感じる。児童精神科医として臨床の場でニーズを体感するのみならず、学会や論文などのアカデミックな活動を通じてマスコミ報道を通じてもその印象は強い。

発達障害とは、脳機能の発達の障害であり、症状が低年齢で発現するものであると定義されており、自閉スペクトラム症 (ASD) や注意欠如・多動症 (ADHD) が代表的である。現在では発達障害をスペクトラムとしてとらえるようになり、例えば対人コミュニケーションのあり方のような発達特性が定型発達から連続していて、苦痛や機能の障害を引き起こすほどであれば発達障害とされる。

発達障害にしても児童虐待にしても、社会的認知が高まったり該当する範囲が広がったりしたことによって増加した面は確かにあるだろうが、それだけとも思われない。発達障害については化学物質や栄養素も含めた生物学的な環境要因の影響も検討されている。社会の変化との関連でも検討が進むことが望まれる。例えば第三次産業の比重が増すにつれ

て対人コミュニケーションの能力が重視されるようになったというように、同じ発達特性であっても問題視されやすくなってはいないか。また、子育てや教育をめぐる状況の変化から、同じ発達特性であっても発達の過程で問題が改善されにくくなってはいないか。

自閉症が知的で冷たい母親によって作られたとされた過去の過ちへの反省からか、発達障害と養育やそれに伴う愛着形成の問題とはどうしても別個に扱われがちであった。実際には、発達障害をもつ子どもはしばしば育てにくさがあり、それに対する配慮は欠かせない。

発達障害が親のせいではないことが確立して、脳とこころの発達に関する知見が積み重ねられてきた現在だからこそ、包括的な検討を深めることができると思う。

こころの発達に関する問題に対して教育でも研究でも治療・支援でも学際的な連携がますます求められている。

金生由紀子
(医学系研究科)